

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）  
（鉄電）二九三五、六（公衆）〇四七二（22）七二〇七

国鉄「分割・民営化」阻止！三里塚二期着工粉碎！

# 三里塚 - 国鉄のたたかいで 戦争へ突き進む反動中曽根内閣を打倒せ

## 核・トマホークの戦艦ニュージャージー寄港許すな

総評主催による（8・4（8・6）被爆四一周年原水爆禁止大会と、被爆四一周年8・6広島反戦闘争全国実行委員会（代表・小西のぶ子）主催による、被爆四一周年8・6広島反戦全国集会が開催され、参加してきました。

今日、また再びヒロシマ・ナガサキが繰り返されようとしています。米帝レーガンは、SDI計画を押し進め、今月にも核巡航ミサイル・トマホークを搭載した戦艦ニュージャージーの日本寄港を策動するなど、核戦争政策を推進している。

また、ソ連・ゴルバチョフ政権は、「チェルノブイリ原発事故は、人為的ミス」として開き直り、原発運転を再開しようとしている。米帝に核軍拡で対抗しようというのだ。

日帝・中曽根も、SDIへの参加策動や、防衛費突出、さらに、三里塚農民・泉州住民への軍事空港建設攻撃、そして国鉄労働者への首切り強行による国鉄分割・民営化攻撃など、戦争体制構築にやっきになっている。今こそ、真に反戦平和の道、核戦争を押し進めようとする日帝・中曽根を打倒することが問われているだろう。

四日の原水禁大会は、（六日まで集会行動があり、県労連として行動）七千人が参加し、ダブル選の既成野党の敗北、日共による原水協というかたちでの分裂

にもめげず、真にたたかいを求めて決起した。

大会で、被爆者代表が許えていました。「戦争の責任を政府はどうとるのか」「被爆者には終戦はない」と。今なお苦しんでいるのです。さらに、朝鮮被爆者の子供達が「おとな達はほんとうに平和を考えているのだろうか。差別・抑圧のない平和な世界を」という訴え。これには、参加者の心をゆさぶりました。

しかし、原水禁運動は、市民団体と日本原水協（共産党系）と、原水禁国民会議（社会党・総評系）と三つに分裂し、真に闘う方針が問われた。

そうした中、午後二時から、被爆四一周年8・6広島反戦闘争全国実行委員会主催による全国住民総決起集会が開催され、集会は、平和公園の噴水前広場で開かれ、権力機動隊と百人以上の私服警察、さらに広島市当局の集会への弾圧を打ち破ってかちとられた。「平和を訴え、市民が集まることになぜ権力が弾圧するのか」が訴えられ、警察は、この訴えに何一つ答えられなかった。まさに、この反戦の声がつぶされたらどうなるのか。まさに、この弾圧を恐れて何も言えなかつたら戦争へ突き進むだろう。

われわれは、戦争へ突き進む中曽根を打倒することが、真に闘う反戦平和のみちではないだろうか。それが、国策と称した農民圧殺攻撃に不屈に二〇年間闘いぬかれている三里塚闘争であり、われわれの「分割・民営化」絶対阻止の闘いだろうと思う。これと結合した反戦闘争こそ、真の反戦闘争ではないだろうか。



原爆ドームは、オーストラリア人ヤン・レッツェル氏の設計で大正4年に建てられた。大正から昭和のはじめにかけて近代化の進んだ広島象徴的な建物であった。この建物は中央部にドームを冠ったレンガづくりの三階建てで、建物のまわりはギリシャ神話にもとづく神々の像が彫られた噴水が12柱もあり、この催し物場を訪れた人びとや市民の憩いの場であった。原爆は、このドームのはほぼ真上で炸裂した。保存か撤去かの議論が繰り返されたのち、国民の手で保存しようという意図から、保存工事費4,000万円は「1円募金」で行われ、1967年、保存工事が完成した。 原爆ドーム

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！

支部支張募 生寄者募